

4 段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
--------	--------	-----------	------------	----------

学校経営 ビジョン	『子どもたちが安心して生き生き学び、のびのび活動する、魅力ある教育の構築』 家庭や地域からの協働の力に支えられ、醸成された教師集団の下、児童の活力ある学習を保障した、より質の高い教育を提供する。
--------------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	重点目標 知の基盤づくり (確かな学力の育成)	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が好き」「知的好奇心が旺盛」「将来の夢がある」等の「学びたい度」の全校平均は12月現在で90.2%である。(昨年度90%) タブレットPCの持ち帰りを段階的に実施し、現在は毎日家庭に持ち帰っている。ドリル等の宿題にも活用が図られている。 鉛筆の正しい持ち方については、12月調査で約91%である。今後も根気強く指導を継続していきたい。 	3	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「学びたい度」の結果を見ると、「学校がきらい」という子どもがいないという ことで、とてもありがたいと感じている。 ○ 学力向上をはじめ、各分野の分析がよ くなされていてすばらしい。保護者アン ケートにもある通り、よい学校運営がな されている。 ○ 地域と連携したキャリア教育は、子ど も達にとってもよい経験となったのでは ないか。
	1 基本的な学習態度の構築と学びた い度が向上する授業の工夫改善 (9 3%以上)	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力テストの過去問やアシストシートを活用してつまづきを把握し、説明や解説を行った後に反復して問題を解かせている。 宅習りレーを通して児童が互いのノートを見ることで自分の取組を見直し、意欲的に家庭学習に取り組む児童が増えてきている。今後も引き続き質の向上を図るとともに、課題に取り組ませるための手立てを工夫していく必要がある。 			
	2 知識・技能の確実な定着とそれら を活用した課題解決する力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館協力員と連携し、児童の興味関心を高めるような図書室設 営、企画を行うとともに、学習センターとしての機能を高めるための工 夫を行った。黒板を整備することで、授業でも活用する場面が増えてき ている。 家庭読書については、親子読書に取り組み、保護者への啓発を行った ことで一定の効果が確認されたが、家庭での読書量を増やすための工 夫を今後も行っていきたい。 			
	3 言語能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 専科担当教員と中学校からの乗り入れによる指導で、教科担任制(外 国語科、理科、家庭科)を実施した。 			
	4 教科担任制導入	<ul style="list-style-type: none"> 初めての取組として、小林秀峰高等学校との連携を図ったキャリア教 育を計画した。地域の学校と連携を図り、小学生と年齢の近い高校生か ら直接話を聞くことにより、児童の意欲向上を図るとともに、ふるさと・ 地域のよさを再確認することができた。 			
	5 キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてエリアコーディネーターや特別支援学校との連携を図り ながら支援を進めてきた。教育相談等を通して、保護者の思いや願いを 支援に反映させることができた。 子育て支援課等の関係機関と定期的に連絡を取りながら、個に応じた 支援を継続している。 			
	6 特別支援教育の充実				

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
徳 育	重点目標 徳の基盤づくり (豊かな心の育成) 1 基本的な生活習慣の定着、思いやりの心の育成 2 望ましい人間関係の醸成	<ul style="list-style-type: none"> 3校合同の研究を通して、「考え、議論する」道徳の授業を継続してきたことにより、職員の意識高揚を図るとともに、校内の環境整備を進めることができた。 朝の登校班への指導や児童会の活動等を通して、気持ちのよいあいさつをしようとする雰囲気作りを行っている。自分から進んで気持ちのよいあいさつができる児童が増えてきている。今後も地域でも気持ちのよいあいさつができるよう、継続して指導を行っていききたい。 4～6年生を対象に、警察署と連携してスマートフォンやゲーム機器によるネットトラブルに関する授業を行った。今後も生活習慣の改善を含めて学級懇談会等で啓発を図っていく。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ あいさつがよくなってきているのではないかと。立ち番指導などで顔見知りになると、よく話すようになった。 ○ 西小林小の子どもは優しい子ども達が多いように感じる。地域の活動などで、他校の友達ともすぐに仲よくなったり、小さな子どもの面倒をよくみたりする姿を見ている。誰とでも分け隔てなく接する姿がとてもよいと感じる。 ○ 冬場は、まだ外が暗いうちから歩いて登校する子ども達がいるが、国道はトラックの通行量が多くなっているため、危険だと感じている。しっかり歩いて登校しているのですばらしいと思うが、安全面での配慮（反射材の活用等）を十分にやっていただきたい。
	3 活力ある地域の人財としての児童の育成	<ul style="list-style-type: none"> 毎月のスマイル委員会（いじめ不登校対策委員会）で、早期発見、早期解決を心がけてきた。不登校につながるような大きなトラブルは発生していないが、今後もきめ細かな観察を継続し、生徒指導主事を中心としたチームとしての対応を行っていききたい。 南部教育事務所派遣のスクールカウンセラーによる保護者面談を実施した（2件）。関係機関との連携により、保護者の願いや思いを把握し、児童の支援に生かすことができています。 7月と12月に「西諸みんなで人権を考える取組」として、各学年で、人権に関する授業実践を行った。学習内容を家庭にも知らせ、感想を書いていただくなど、家庭と連携した取組を行った。 全校朝会で「思いやりの心」についての話をし、温かな学校づくりについて児童の理解を深める取組を行った。今後もピアサポートの考えを生かした授業実践を行い、研究の深化につなげていきたい。 			
		<ul style="list-style-type: none"> 児童総会を踏まえ、子どもが自治活動を実践する場を確保している。気持ちのよいあいさつができる児童が増えるなど、活動の成果が少しずつ現れてきている。 米作りでは、JA青年部やPTAの協力の下、充実した活動を行っている。他学年においても総合的な学習の時間等で講話を依頼するなど、地域と連携した取組を行うことができています。 今年度は、西小林地域の素材を生かした活動に加え、これからの自分の在り方や生き方を考えるキャリア教育の観点から、先の全国和牛能力共進会において、特別区で優等2席を受賞した県立小林秀峰高等学校の生徒から話を聞いたり、高校の学科の一部を見学したりする学習を計画した。子どもたちは、年齢の近い高校生から、牛を育てるうえでの苦労や喜びなど実体験に基づいた話を直接聞くことができ、自分の将来の夢や職業等について大いに参考になった。 前面の黒板を整備したり、各学年の教科の学習で利用する図書を整理したりすることにより、学習センターとしての機能を高めることができた。授業での図書室の利用が図られている。 			

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
体 育	重点目標 体の基盤づくり (健やかな身体の育成) 1 体力の向上 2 健康的な望ましい生活習慣の定着 3 将来にわたる望ましい食習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> 5月に実施した体力テストでは、62.5%の項目が県平均を上回っている。改善が必要なボール投げについては、11月に再調査を行い、強化を図った。すべての学年で記録の伸びが確認された。主運動につながる補助的な動きを繰り返し行うなど、体の使い方や動かし方についても継続して行うことにより、記録向上が見られることを再確認した。今後も、全教育活動を通して体力の向上に努めたい。 春季運動会は、今年度も学年部ごとに表現、リレーを選択して行い、徒競走だけのプログラムにならないようにした。地域に開かれた学校づくりの観点から、開催の在り方についてPTAを交えて検討を行っていききたい。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナの影響で欠席する児童も多く、給食に影響が出たと思うが、今後も家庭と連携を図りながら食育指導を充実させてほしい。 ○ 子どもたちは、コロナ禍にあっても、勉強や運動に本当によく頑張っていると感じている。 (知徳体以外の観点から) <ul style="list-style-type: none"> ○ 制服について、金銭的に親の負担も大きいのではないかと。LGBTQへの対応等も含めて、保護者の考えを聞いてみるのもよいのではないかと。 ○ 学校だよりの発行は毎月ではなく、2か月、あるいは3か月に1回でもよいのではないかと。
	<ul style="list-style-type: none"> 「早寝・早起き・朝ごはん・歩いて登校」の達成率70%、衛生的な手洗い・マスク着用85%、むし歯治療率33%である。今後も感染予防の意識を更に高めるような手立てを工夫していききたい。 肥満傾向の児童5名には生活改善表を与え、個別の保健指導を行った。 フッ化物洗口は、コロナウイルス感染症の影響で、2/7現在も一時中断している。 				
	<ul style="list-style-type: none"> 給食時間や学級活動を通して、食に関する指導を推進している。今年度も夏休みに「食の贈り物」と題して、家族に食事の準備をするという宿題を課したが、ほとんど全員が提出した。 弁当の日を年1回(お別れ集会)計画し、それぞれの家庭でできるコースを選んで実践している。 残食についてはコロナ禍による欠席の影響により、8月現在で約4.5%であったが、11月現在1.2%に減少している。学年による差も多少見られるため、食育指導を更に充実させていききたい。 				

次年度の方向性についての校長所見

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、教育計画の変更を行いながら実践を重ねてきた。当初の予定どおりに進まないこともあったが、教育の質を落とすことなく、充実した教育活動になるよう職員一丸となって尽力し、今日の成果を得た。これも、保護者や地域の方々の深く温かい理解と協力の賜であると感謝している。今後、明らかになった課題解決に向けて、次年度も鋭意努力していく所存である。

学校関係者評価を受けて、次年度は次の点において重点的に取り組んでいきたい。

- 知の基盤づくり（確かな学力の育成）
 - ・ 全国学力・学習状況調査やみやぎき小中学校学習状況調査等の諸調査の分析をもとに、自分の考えを伝えあい、互いに深めあうことのできるような指導の工夫・改善を図るとともに、基礎的・基本的な学習内容の定着を図っていく。特に、児童一人一人のつまずきを大事にし、習熟の時間をしっかり確保した上で見届ける指導を行い、それぞれの課題解決を図っていきたい。
- 徳の基盤づくり（豊かな心の育成）
 - ・ 令和5年度の「道徳教育研究指定」研究公開に向けて、幸ヶ丘小学校、西小林中学校との連携した研究を更に推進していきたい。
- 体・食の基盤づくり（健やかな身体の育成）
 - ・ サーキットトレーニングやストレッチ運動など、主運動につながる動きを取り入れ、体育の時間の指導の充実を図りながら、児童がすすんで運動に親しむ態度の育成に努めたい。
 - ・ 感染症予防の観点から、マスク着用や手洗い・うがいの励行など、基本的な生活習慣の徹底について、家庭との連携を図りながら指導を継続していきたい。
 - ・ 「食の贈り物」や「弁当の日」の取組を継続し、家庭と連携しながら食育の充実に努めていきたい。
- その他
 - ・ にっこばまちづくり協議会を中心とした地域との連携を更に推進し、地域の素材や人財を活用したキャリア教育を充実させ、学校と地域とが一体となって相互の課題を解決できるよう取組の充実を図っていきたい。
 - ・ コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、これまでの3年間の取組を十分検討しながら、更により学習環境、学習内容を整えていきたいと考える。